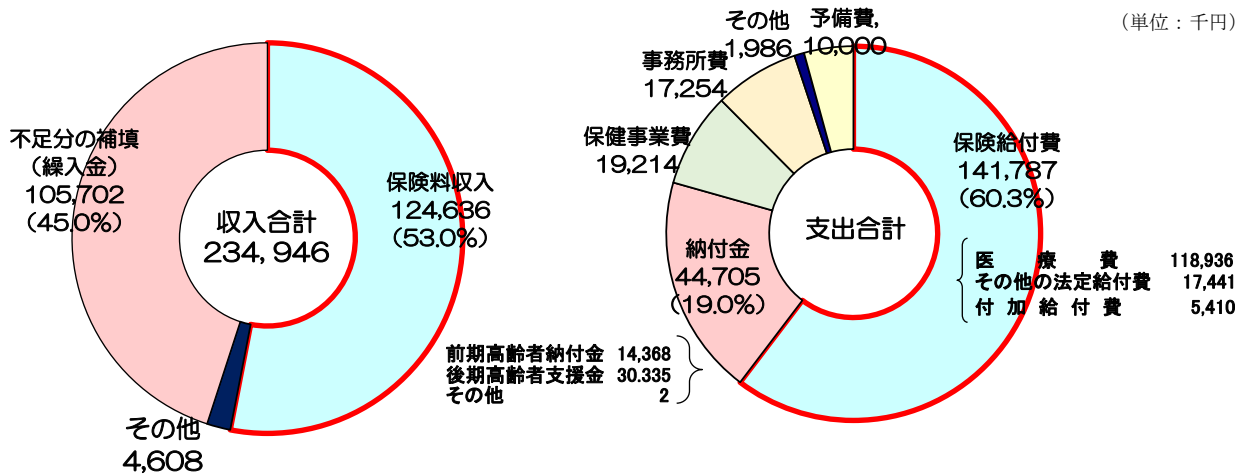


## 2023年度 収入支出予算案

(単位：千円)



一般勘定における予算は、収入は1億2924万円、支出は2億3494万円を予定しており、不足分1億570万円は預貯金を取り崩し補填します。

- ◆ 保険給付費とは？  
当健保加入者が医療機関等にかかり、当健保が負担した金額。
- ◆ 前期高齢者納付金とは？  
65～74歳までが多い国民健康保険（国保）の財政支援のため納付する。保険者間の費用負担を調整（平均化）。自組合の前期高齢者1人当たり給付費で算出するので医療費適正化対策等で自組合の前期高齢者給付費を下げることで納付金を減少することができる。
- ◆ 後期高齢者支援金とは？  
75歳以上が入る「後期高齢者医療制度」への支援金。
- ◆ 保健事業とは？  
当健保が実施する、健康診断、予防接種、家庭用常備薬斡旋、育児情報誌等のこと。

## 【介護勘定】

介護勘定における予算は、収入2207万円、支出は介護納付金1707万円を予定しており、予備費として498万円を予定しています。

## 【2023年度 保険料率】 2022年度と同じ

	2022年度	2023年度	備考
一般保険料率	80.720 /1000	80.810 /1000	健保加入者（扶養家族を除く）全員から徴収
調整保険料率	1.280 /1000	1.190 /1000	健保加入者（扶養家族を除く）全員から徴収
計	82.000 /1000	82.000 /1000	
介護保険料率	18.000 /1000	18.000 /1000	健保加入者（扶養家族を除く）の40歳～65歳未満の者から徴収
計	100.000 /1000	100.000 /1000	

- ◆ 一般保険料とは？  
健保の財源として、主に保険給付費として医療機関への医療費の支払い、国に収める納付金（税金のようなもの）健康診断等の保健事業等に使われています。
- ◆ 調整保険料とは？  
健康保険組合連合会に収めるために徴収しています。おおよそ1.300/1000の前後で年度により替わります。
- ◆ 介護保険料とは？  
国に収めるために徴収しています。

当健保の一般保険料率は、他健保平均より低くなっています。本年度予算でも一般勘定資産（預貯金）からの繰入（取り崩し）での対応とし一般勘定資産との関係でいずれ收支均衡となるように料率を上げる必要があります。

また、保険給付費を下げるために保健事業を充実し、一人一人の健康リテラシーも向上させる必要があります。

介護保険料率は他健保平均と同等なっております。

(参考) 一般保険料率 健保組合（1387組合）：平均保険料率 92.260/1000（2022年度予算） 協会けんぽ：100.000/1000（2023年度予算）  
介護保険料率 健保組合（1387組合）：平均保険料率 17.800/1000（2022年度予算） 協会けんぽ：18.200/1000（2023年度予算）